

## タマディック 森實 敏彦社長

世界初の木質免震構造ビルが完成  
「大変革の時代 本業で貢献を」

**塚本** 総合エンジニアリング会社・タマディックについて教えてください。

**森實** 戦時中、航空機の生産技術者だった祖父・千馬太が横浜で1959年に設立した設計事務所・多摩技研が前身です。自動車・航空機産業の発展とともに伸び、名古屋が実質的な本社で産業機械、ロボット、宇宙産業、ソフトウェア分野にも技術サービスを提供しています。全社員（1083人）のうち9割がエンジニアで、製品・設備の設計・開発・生産技術を担い、製品の基本構想の企画・立案から、詳細な設計・生技まで、幅広い技術提供を行なっています。国内9拠点、海外3拠点で、売上高129億余円です。新本社ビルは名古屋市内の笠寺、大江、伏見の3か所にあった一部老朽化した事務所をまとめることと、管理部門（2～3階）と設計部門（5～6階）を統合し人事交流をやすくするためでした。

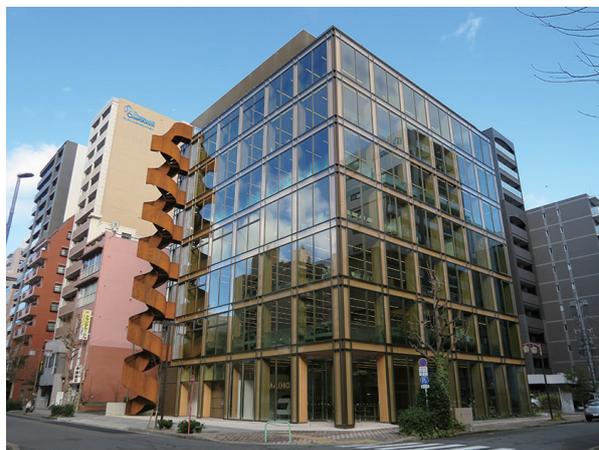
——ビルの特長は？

**森實** 建築面積約510㎡、地上8階地下1階、延べ床面積約4500㎡のビルですが、C

航空・宇宙や自動車、ロボットなどの機械設計、生産技術を担う総合エンジニアリング「タマディック」（東京都新宿区新宿6，森實敏彦社長）が名古屋市中区丸の内2に建設中だった本社ビル「タマディック名古屋ビル」が完成し1月6日営業開始した。同ビルは8階建てで世界初の木質免震構造など新機軸が満載で、社員が使えるサウナも設けるなど「挑戦的で面白いビル」（森實社長）という。設計技術の一括化の推進、グローバル対応に加え脱炭素化を掲げる森實社長にその趣旨を聞いた。（聞き手は塚本隆編集長）

LT（直交集成材）を活用した木質免震構造が一番の特長です。

柱は国産杉のCLT板で口の字型断面の型枠にして中に鉄筋コンクリート（RC）を打設し、RCを内蔵したハイブリッド断面としています。常時は内蔵のRC断面が建物を支え、地震時には木造（CLT）+RCの柱として水平力に抵抗できます。万一の火災時はRCが建物を支えます。性能試験でも耐力、剛性ともRCのみよりかなり優れていました。天井も同様で、全体



タマディック名古屋ビル